

1
 特集

重原孝臣新学長が就任

 Vol.47
 May
 2026

学長メッセージ

このたび第14代学長に就任し、埼玉大学の将来を担うことになりました。埼玉大学をますます発展させるよう全力を尽くしてまいります。どうぞよろしく願い申し上げます。

埼玉大学は、1949年に新制国立大学として旧制浦和高等学校、埼玉師範学校及び埼玉青年師範学校を統合して創立されました。以来75年余が経過し、現在は教養・経済・教育・理・工の5学部と人文社会科学・教育学・理工学の三研究科を一つのキャンパスに擁する総合大学に発展してきています。

「All in One Campus」という本学の特長は、単なる地理的な集約を意味するものではありません。人文学・社会科学・自然科学という学問の三大体系を基礎から応用まで包含し、さらに次世代を育てる教育学部を備える本学は、専門分野を深く究める力——すなわち「専門知」を育むと同時に、それらを有機的に結び付ける土壌を自然体で備えています。

本学が目指す「総合知」とは、専門知を深化させることを前提に、それらを分野横断的に結び付け、複雑な課題を構造的に理解し、持続可能な解決策を構想する知の力です。専門知と総合知の往還の中で、自ら問いを立て、他者と協働しながら未来を切り拓く人材育成することが、本学の教育の柱です。

研究においては、自由で独創的な探究を何よりも尊重します。環境・エネルギー、地域産業の高度化、教育改革、福祉・共生社会の実現など、多様な課題に対し、基礎と応用、専門と融合の両面から戦略的に取り組み、その成果を社会へと還元してまいります。

学生支援においては、学修支援、キャリア支援、メンタルヘルス支援を体系的に整備し、障がいのある学生や留学生を含む多様な学生が安心して学べる環境を充実させています。

埼玉大学のあるべき姿とは何か。知の総合力を結集し、教育と研究を両輪として、地域と世界を結び、次代を担う人材と未来の教育を支える教員を育成する大学であること。この使命を胸に、皆様とともに未来を拓いてまいります。今後ともご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



埼玉大学長 重原孝臣

新学長就任および新常勤理事就任に関する記者会見を開催



▲記者会見に臨む左から坪田理事、重原学長、戸澤理事、戸部理事

4月7日(火)、大会館において、「新学長就任および新常勤理事就任に関する記者会見」を開催しました。

本会見では、重原学長が、就任にあたっての抱負や今後の大学運営の方向性について説明を行いました。あわせて、新たに就任した3名の常勤理事である戸澤謙理事(研究・産学官連携担当)・副学長、戸部秀之理事(教学・学生担当)・副学長、坪田知広理事(総務・財務・施設担当)・事務局長も同席し、それぞれ挨拶がありました。

会見には報道機関各社が出席し、質疑応答では本学の今後の取り組みや展望に関する質問が寄せられました。重原学長は、5学部が一つのキャンパスに集約された環境を最大の強みとし、この環境を生かして「専門知」と「総合知」を兼ね備えた人材の育成が重要であると抱負を述べました。

2 教育 Saitama MIX Pitch を開催 — 高校生×大学生アントレプレナーシップチャレンジ —

1月21日(水)、さいたま新都心駅直結の埼玉県イノベーション創出拠点「渋沢MIX」にて、本学主催のピッチイベント「Saitama MIX Pitch – 高校生×大学生アントレプレナーシップチャレンジ」を開催しました。本イベントは、本学が令和7年度より開始した「アントレプレナーシップ教育プログラム」の中核科目である「アントレプレナーシップ実践演習」の最終報告会として実施されたものです。(後援：日本政策金融公庫)

本プログラムは、自ら社会課題を発見し、新たな価値を生み出す「アントレプレナーシップマインド」を持つ人材を育成することを目的としています。受講した学生たちはチームに分かれ、学生自身の問題意識を起点に、解決策の具体化からビジネスモデルの構築までを実践的に学びました。当日は、科目担当である本間俊司教授(本学オープンイノベーションセンター長)の進行のもと、野中進理事(教学・学生担当)・副学長の開会挨拶でスタートしました。本学の履修学生に加えて、埼玉県内の高校生2チームも参加し、計7チームがコンテスト形式で、斬新なアイデアと情熱あふれる発表を行いました。

本学教員と外部専門家による厳正な審査の結果、以下のチームが各賞を受賞しました。



▲記念撮影



▲表彰の様子



▲司会進行 本間教授

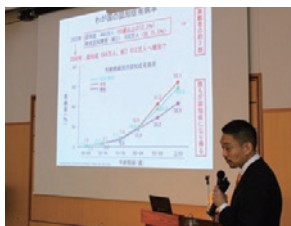
賞名	チーム名	今回の政策提言のテーマ
最優秀賞およびオーディエンス賞	ドロップ	タクシーによる南与野駅バス混雑の緩和
優秀賞	お結び OMUSUBI	旅館の未来を支える、短期特化の人材マッチング
審査員特別賞	埼玉県立狭山工業高等学校チーム	特・農・商・工連携 狭紅茶で世界に挑戦

3 研究 新しい認知症観への変革を目指して — さいたま市と共催で第1回埼大オレンジシンポジウムを開催 —

1月24日(土)に、さいたま市生涯学習総合センターにて、埼玉大学社会変革研究センター地域共創研究部門 第1回埼大オレンジシンポジウム「新しい認知症観への変革を目指して! ~ “さいたま”での領域を超えた協働の可能性を探る~」を、埼玉大学、さいたま市及び一般社団法人国立大学協会の共催により開催しました。

シンポジウムは、本学の坂井学長の開会挨拶から始まり、さいたま市の清水勇人市長よりビデオメッセージが寄せられ、誰もが関係する現実の問題であり、産学官民の連携、共創の重要性、これからの取り組みへの期待が述べられました。

地域の方々、企業、大学関係者など120名近い参加者があり、関心の高さを感じることができました。



▲社会変革研究センター地域共創研究部門 近江教授



▲オレンジシンポジウム関係者による記念撮影

4 学生 令和7年度3月期学生表彰を挙行 — 優れた学術研究・課外活動の成果を称えて —

3月6日(金)、令和7年度3月期学生表彰式を開催しました。この表彰は、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生を表彰する制度です。今回は個人表彰15名、団体表彰4団体に対して坂井学長から表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。



▲学長を囲んで記念撮影

受賞者一覧はこちら

学生表彰URL https://www.saitama-u.ac.jp/news_archives/202603091200.html



埼玉県芸術文化振興財団と包括連携協定を締結

2月17日(火)、本学と公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団は、地域における芸術文化の振興及び知の継承・発展に寄与することを目的として、包括連携協定を締結しました。

これまで本学では、教養学部及び人文社会科学部において、県有施設である彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館を管理・運営している埼玉県芸術文化振興財団と連携した講義及びインターンシップの開講などを通じ、学生に対する地域の文化資源としての公立劇場の役割と課題についての理解を深めてきました。今後、人的・物的資源の一層の有効活用を図り、芸術文化の振興を推進するとともに、知の継承と発展に寄与することを目的として、この度の協定締結に至りました。これを機に、埼玉県の芸術文化のさらなる振興に貢献していきます。



▲彩の国さいたま芸術劇場 光の庭にて協定書を掲げる
坂井学長(中央左)と林理事長

彩の国Komvuxプラットフォームシンポジウムを開催

— 大学発リカレント教育がもたらす地域発展の未来 —

3月10日(火)、総合研究棟シアター教室にて、本学主催による第1回「産学官金協働による彩の国Komvuxプラットフォームシンポジウム—大学発リカレント教育がもたらす地域発展の未来—」を開催しました。

第一部の来賓講演では、文部科学省 総合教育政策局 生涯学習推進課 課長補佐の高野智志氏より、「文部科学省が考えるリカレント教育の重要性と未来に向けた取り組み」について、その後の基調講演では、株式会社日さく 代表取締役の若林直樹氏より、「地域の水を守る技術を次世代へ—井戸掘削・井戸メンテナンス企業におけるリスキリングと人材育成—」についてご講演いただきました。第二部のパネルディスカッションでは、「リカレント教育の現状と未来への展望」と題し、計8名のパネリストにより、現場が直面するリカレント教育の課題と今後の期待について活発な意見交換がなされました。

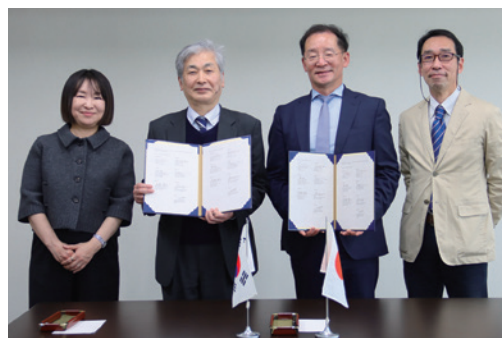


▲パネルディスカッションの様子

韓国・慶熙大学校と学術交流協定の調印式を行いました

3月26日(木)、本学は韓国の慶熙大学校との学術交流協定の調印式を執り行いました。慶熙大学校の、KIM Jong-Bok 副学長(国際・外部連携担当)、LEE Yong-Sung 副学長室長、LEE Myungwi 教授(韓国語教育部長)、KIM Miri コーディネーター(日本担当)に加えて、関係機関である埼玉韓国教育院から、CHOI Suhung 院長、KIM Yein 行政員、LEE Seongyeong 行政員が出席しました。本学からは、野中進理事(教学・学生担当)・副学長、市橋 秀夫副学長(国際・グローバル教育担当)、鮮于 媚 日本語教育センター長・教授、韓 敬愛 准教授(多文化共修センター)ほか関係職員が出席しました。

式典では、韓准教授の司会進行、全学教育課職員の社本珠江係員の通訳により、両大学の代表挨拶に続いて大学紹介が行われ、学生交流や語学教育での連携強化、短期プログラムの共同実施など、今後の協力の方向性について活発な意見交換が行われました。両大学は教育・研究・交流のさらなる発展に向けて協力関係を深めていきます。



▲署名後の記念撮影(左からCHOI院長、野中理事、KIM副学長、市橋副学長)

株式会社社会調査研究センターの寄附で「SSRC 起業奨学金」が設立

このたび、埼玉大学認定ベンチャー企業の第1号である株式会社社会調査研究センターより、埼玉大学基金「冠奨学金基金」へご寄附を賜り、新たに「SSRC起業奨学金」が設立されました。本奨学金は、在学中に起業を志し、卒業(修了)後も自らの事業を継続する予定の学生を支援することを目的としています。

3月30日(月)、令和7年度の初代奨学生2名に対し、坂井学長より奨学生証が授与されました。授与式には、株式会社社会調査研究センター代表取締役社長で、本学名誉教授でもある松本正生社長も出席されました。今回、奨学生証を授与されたのは、田原 大輔さん(2026年3月大学院理工学研究科 博士前期課程修了)と木村 遼さん(経済学部)の2名です。SSRC起業奨学金は令和8年度以降も引き続き公募が行われる予定です。本学は、アントレプレナーシップ教育の推進とその実践的支援を通じて、社会で活躍する人材の輩出および地域社会への貢献を目指していきます。



▲記念撮影(左から松本社長、木村さん、田原さん、坂井学長)

9
特集

別れと出会いの春

本学ではこの春、卒業式・大学院修了式および入学式を大宮ソニックシティ大ホールにて挙行了しました。なお、本年度は学長交代の節目とも重なり、卒業式は前学長にとって最後の式典、入学式は新学長にとって最初の式典となりました。

●令和7年度卒業式・大学院修了式

3月25日(水)、学部学生1,517名、博士前期課程学生598名、博士後期課程学生26名が本学を巣立ちました。坂井前学長は式辞で「誠実に積み重ねられた努力は、すぐに成果として現れなくても、皆さん自身の力を育むと同時に、確かな信頼として蓄えられていきます。その信頼は、人生の節目において皆さんを支え、新たな扉を開く力にもなっていきます」と卒業生・修了生にエールを送りました。また、卒業式では「梶田隆章賞(本学理学部を卒業し、2015年にノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章さんの栄誉を称え、次世代の若手研究者の育成を目的に設立)」の授与も行われ、理学部数学科 池竹 和豊さん、工学部応用化学科 尾崎未琉さんの2名にクリスタル盾と副賞が授与されました。

●令和8年度入学式

4月4日(土)、学部・大学院合わせて2,337名の新入生を埼玉大生として新たに迎えました。重原学長は式辞で、新入生の入学を祝し、「言語」「数学」「文化・芸術」。これらの三つの言葉を身につけることは、皆さんが自らの専門知を深めると同時に、それをより広い視野の中で結びつけ、新しい価値を生み出す総合知へと発展させていくためにも大切な礎となります。三つの言葉を通して世界と交わり、自分自身を相対化し、自分自身の個性を発見し、自分自身の将来を見定める力を養っていただくことを期待しています」とエールを送りました。式典には多くの保護者の方々にもお越しいただき、温かな雰囲気の中、新入生は希望に満ちた表情で埼玉大生活の第一歩を踏み出しました。



▲式辞を述べる坂井真文学長



▲学位記授与



▲梶田隆章賞 工学部応用化学科 尾崎未琉さん(左)、理学部数学科 池竹和豊さん(右)



▲桜の下で記念撮影



▲会場の様子



▲式辞を述べる重原孝田学長



▲学士課程(経済学部)代表挨拶 大山周悟さん

梶田隆章賞の詳細はこちら

Saidai Concierge <https://www.saitama-u.ac.jp/entrance/scweb/>



埼玉大学基金室より

埼玉大学基金のご案内

埼玉大学基金は、これまでに多くの卒業生や地域、企業の皆さまから賜った温かいご寄附により、右記の5つの目的に沿って、教育・研究環境の充実や学生支援、地域および国際社会への貢献等に活用させていただいております。2029年に迎える創立80周年に向け、基金は本学の新たな挑戦と未来を担う人材育成を、今後も力強く支えていく重要な基盤となります。日頃よりご支援をお寄せいただいている皆さまに心より御礼申し上げますとともに、引き続き温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



詳しくはホームページをご覧ください

<https://www.saitama-u.ac.jp/funds/>

埼玉大学基金 検索

◆埼玉大学基金へのご寄附の累計額

令和8年3月末の状況 **786,472,228**円

うちリサイクル募金 きしゃぼん によるご寄附 **1,882,027**円

お問い合わせ先 埼玉大学基金室(総務部広報渉外課内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp

田 埼玉大学創立80周年記念事業募金

主な事業として、混住型学生寮整備によるグローバル人材育成、産学官連携を推進する共創拠点の整備、障がいのある学生への修学支援、課外活動環境の充実、80周年記念式典や大学史の編纂・刊行などを実施し、未来志向の大学づくりを進めます。

📁 増大みらい基金

大学の機能強化と学生への奨励を目的とし、教育・研究環境の充実、キャンパス整備、国際交流、社会連携及び給付型奨励金や100円朝食などの学生奨励事業等、幅広く支援する基金です。安心して学び挑戦できる環境づくりを進めます。

📖 修学サポート基金

税額控除対象

経済的理由により修学が困難な学生を支援する基金です。授業料等免除、奨学金、海外留学支援、TA・RA雇用、留学生宿舍支援、障がい学生への合理的配慮の6事業を実施し、学修継続を支え、安心して学べる環境を整備します。

🔬 研究等支援基金

税額控除対象

未来を担う若手研究者(学生または不安定な雇用状態にある研究者)を支援する基金です。公募研究への参画支援や研究活動費の補助、論文刊行・学会発表等に必要経費負担、異分野交流を通じた研究力と専門性の向上を促進します。

🏆 冠奨学金基金

学業成績が優秀な学生や特定の分野に積極的に取り組む学生を対象とした給付型奨学金です。対象学部、給付基準、金額、支援期間、冠奨学金名などについては、寄附者様のご意向に沿って、活用させていただきます。

